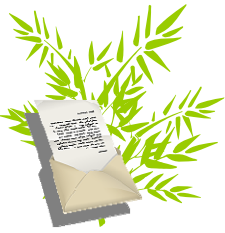


『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第79号(2011年5月31日)大規模な電力不足



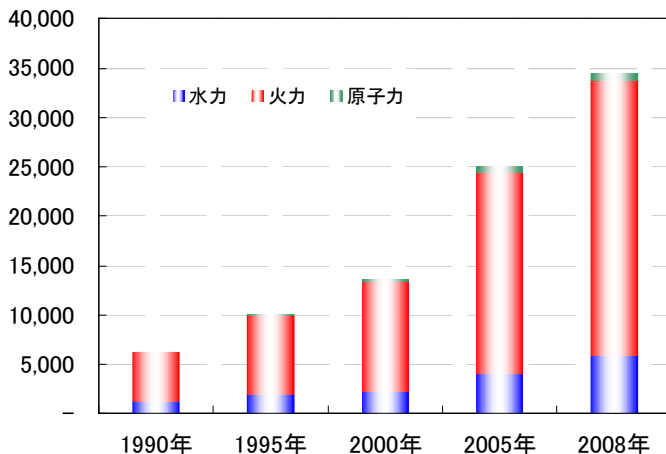
大規模な電力不足

福島原発の影響により、日本がこの夏電力不足に陥る懸念があるとされています。国民の総力を挙げて、節電対策等が進んでいる中、隣の中国も同じく電力不足に悩まされているようです。国有企業の「中国国家電網」は5月23日、今夏、電力不足が、過去最大の4,000万千瓦ワットに達する可能性があるとの見通しを発表しました。これは原子力発電に換算すると、約40基に相当します。

国土が広いこと、電力不足の深刻度合いには地域的なばらつきがあります。中国の第二次産業の電力消費量は、家庭用電力消費量の約6倍になるため、製造業が盛んな地域を中心に、電力不足が特に懸念されています。各地方政府が、工場への稼働制限をかける等、緊急対策を打ち出しはじめています。

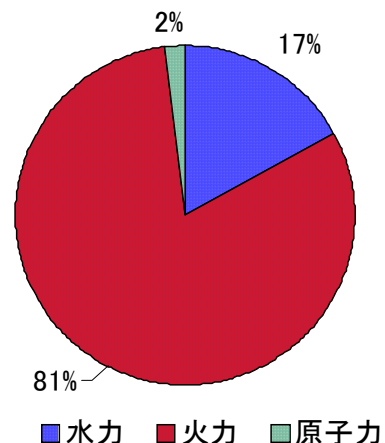
順調な経済発展による需要の増加が電力不足の一要因ですが、下図のように中国の発電が火力に頼りすぎたことも大きな要因であると考えられます。その火力発電の原材料となるのは、ほとんどが石炭です。

単位: 億kWh 中国電源別発電量の推移



出所: 中国国家统计局

2008年中国電源別発電量の割合



出所: 中国国家统计局



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



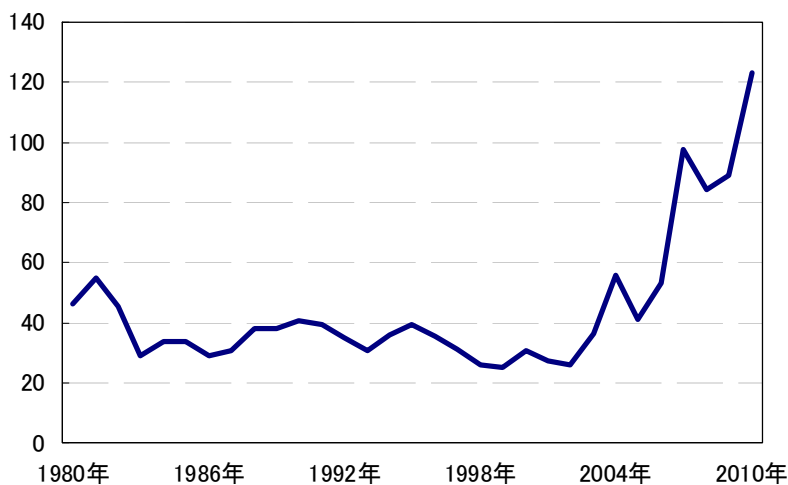
長期的な電力危機から抜け出すには

中国の発電は石炭に依存しているため、直近の石炭価格の高騰に電力会社は大変苦慮しています。また、インフレ懸念が高まる中で、政府が製造業のメインコストとなる電力料金をコントロールしています。そのため、発電コストが大幅に上昇しても、値上げが出来ない電力会社は、電力生産を増やすインセンティブが働きません。すなわち、石炭価格が上昇する一方で電気料金が固定されていると、発電すればするほど利益が圧迫されるためです。こうした電力需給の問題を解決するには、電力料金の値上げが急務になると考えられます。

今年の電力問題は短期的な需給調整や規制等で解決していくと思われませんが、中国にとって、長期的な電力危機を克服するにはもっと抜本的な対策を講じる必要があると考えられます。まず、原子力発電の拡大が世界的に問題視されている中、太陽光発電や風力発電等の自然エネルギー利用を普及させなければなりません。常に火力発電に頼っている体制が続けば環境を破壊してしまう上に、原油や石炭等の価格上昇にも対応できません。また、送電網をはじめとする電力インフラ整備を加速させることも国土が広く、地域需給のばらつきが大きい中国にとっては重要であると判断しています。第12次5か年計画においては、自然エネルギーと送電網の拡充が積極的に推進されることが予想されます。

単位:USドルトン

石炭価格の推移（年次）



出所: IMF - Primary Commodity Prices

(編集後記) 5月16日、中国政府が電力インフラの改善に繋がる政策を発表しました。3年間で約2,000億人民元(約3兆円)を投資し、中国農村の送電網の供給能力と質を高めるという計画です。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。